真備町埋蔵文化財発掘調査報告　2

和唐寺遺跡

真備町岡田山の谷地区
ほ場整備に伴う発掘調査

2001年3月

岡山県真備町教育委員会

序

真備町は高梁川と小田川の下流域にあって、米作りに適した地であることから、古代文化中枢の一角をなしてきました。

弥生時代の遺跡としては、箭田の西山遺跡から住居跡や特殊器台が出土しており、稲作文化の村の発展ぶりがうかがえます。古墳時代には遺跡がさらに多くなり、岡山大学が平成10年から3か年にわたり発掘調査を行った天狗山古墳をはじめ、箭田大塚古墳、二万大塚古墳など多くの古墳が確認されています。

奈良時代には、本町の一帯を本拠地としていた下道氏の子孫である、吉備真備が留学生として、また遣唐副使として唐に渡り、帰国後、天平文化に大きく貢献し、政治家として、また学者として活躍したことは内外に知られております。

また本町は古くから、東西交通の大道である山陽道筋にあるとともに、南北交通の高梁川（高瀬舟）、松山往来との結節点にあり、交通の要衝を占めてきました。

近年では、県南工業地帯のベッドタウンとして急速に発展してきており、平成11年に開通した井原鉄道をはじめとする交通網の整備、住宅地の建設などが進められ、平成12年7月には町立図書館が開館するなど、公共施設の整備がなされ、都市近郊型の自治体として社会資本の充実がなされるとともに、自然環境との共生や心の豊かさをもとめる声は高まっています。

このような現況のなか、岡田山の谷地区において、ほ場整備が行われることになりました。

同地区には、白鳳時代に建立されたと言われる岡田廃寺があることから、工事の影響を受ける箇所において、平成10年度に確認調査を実施しました。その結果、岡田廃寺の寺域と想定され部分は、すでに開発によって破壊されており確認には至らなかったものの、その北約300mの場所において、奈良時代の住居跡と思われる遺構が確認されたため、平成11年度にその周辺約1000㎡について発掘調査を実施しました。

この報告書はその成果をまとめたものであります。本書が文化財の保護保存のために活用され、また学術研究の資料としてお役立ていただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、多くのご教示とご指導をいただいた岡山県教育庁文化課、岡山県古代吉備文化財センター、総社市教育委員会の方々、また調査に従事した作業員の方々をはじめご協力いただいた関係各位には記して厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

真備町教育委員会
教育長　山　下　芳　枝

例　言

1. 本書は、岡田山の谷地区小規模ほ場整備に伴い、真備町教育委員会が発掘調査を実施した「和唐寺遺跡」の調査報告書である。
2. 和唐寺遺跡は、吉備郡真備町大字岡田山の谷に所在する。
3. 調査は、確認調査を平成10（1998）年4～5月、全面調査を平成12（2000）年1～3月に実施した。調査面積は、確認調査が320㎡、全面調査が1,000㎡である。
4. 発掘調査の担当者は、確認調査、全面調査とも真備町教育委員会社会教育課藤原憲芳である。
5. 出土遺物の整理は真備町公民館で行い、報告書作成後は同館に保管している。
6. 本報告書の執筆は第1章を真備町役場農林経済課小野益二が担当し第2・3・4章及び編集を藤原が担当した。文末に文責を記している。
7. この報告書の高度値は海抜高であり、遺構実測図の方位は磁北である。
8. 第2図の周辺の遺跡分布図は、国土地理院発行の25,000分の1の地図を複製したものである。
9. この報告書に関係する実測図、写真、遺物等は真備町公民館で保管している。

目　次

序　文
例　言
第1章　地理的・歴史的環境 ……1
第2章　調査にいたる経緯 ……4
第1節　調査および報告書作成の経過 ……4
第2節　調査の体制 ……5
第3章　発掘調査の概要 ……8
第1節　確認調査（平成10年度） ……8
第2節　和唐寺遺跡の遺構・遺物（平成11年度） ……11
第4章　まとめ ……15

図 目 次

第１図　遺跡の位置図 ……1
第２図　周辺の遺跡分布図（S＝1／25,000） ……3
第３図　トレンチ配置図（S＝1／2,500） ……6
第４図　トレンチ17出土遺物（S＝1／4） ……8
第５図　トレンチ17平断面図（S＝1／80） ……8
第６図　和唐寺遺跡平面図（S＝1／200） ……9
第７図　和唐寺遺跡断面図（S＝1／40） ……10
第８図　土壙－1出土遺物（S＝1／4） ……10
第９図　土壙－1平断面図（S＝1／40） ……11
第10図　竪穴住居状建物平面図（S＝1／40） ……11
第11図　竪穴住居状建物断面図（S＝1／40） ……12
第12図　竪穴住居状建物出土遺物（S＝1／4） ……13
第13図　土壙－2平断面図（S＝1／40） ……13
第14図　遺物包含層出土遺物（S＝1／4） ……14

表 目 次

出土土器観察表 ……16

図版目次

図版1　1. 和唐寺遺跡の遠景（南から）
　　2. 柱穴の出土状況（西から）
図版2　3. 竪穴住居状建物（南西から）
　　4. カマド検出状況（南から）
図版3　5. トレンチ17出土遺物
　　6. 土壙－1出土遺物
図版4　7. 竪穴住居状建物出土遺物
　　8. 包含層出土遺物
図版5　9. 包含層出土丹塗り土師器
　　10. 発掘調査風景

第1章　地理的・歴史的環境

真備町は、岡山県の南西部に位置し、北側は総社市、東側は都窪郡清音村、南側は倉敷市と浅口郡船穂町、西側は小田郡矢掛町と接している。町の北西部は、妹山、鷲峰山、高山の標高300mの山が連なっている。また、南西部は、弥高山を中心にして山地が形成されている。

町の東端には、中国山地に源を発する岡山県の三大河川の一つである高梁川が南流し、町のほぼ中央を東流する小田川と合流し、比較的安定した平野部を形成しており、主に稲作を中心に発展してきた。

真備町内では、旧石器時代の遺跡は今まで知られていないが、高梁川を東に渡った総社市の宝福寺裏山遺跡(1)と、浅尾遺跡(2)でナイフ型石器が発見されている。町内でも将来発見される可能性がある。

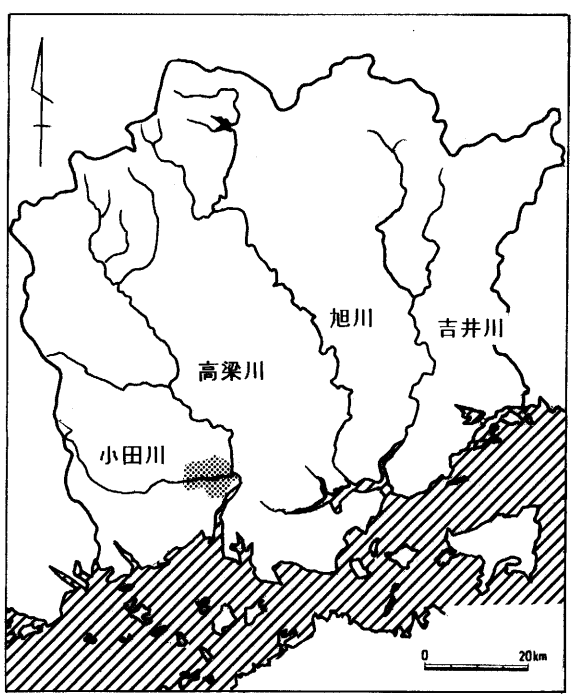
縄文時代の遺跡としては、妹の蓮池尻遺跡において後期から晩期の土器が出土しており、町内において当時の人々が生活していたことを示す資料である(3)。

弥生時代になると、土器や石器が採集されている遺跡は町内各地で発見されている。それらは、丘陵の尾根筋や斜面、あるいは微高地上などである。

町内で今までに発掘調査された遺跡は数か所であるが、そのうち蓮池尻遺跡では、前期からの遺物が出土しており集落の存在が指摘されている(4)。なお、この遺跡内で大正4（1915）年に流水紋銅鐸が出土している。箭田の西山遺跡では、丘陵の尾根上で中期末から後期の竪穴住居址と袋状土壙が発見されている(5)。有井の阿知境遺跡では、住居址は発見されていないが、中期からの土器等が出土しており、調査区域外に集落を形成していたものと思われる(6)。また、市場の蚊峰遺跡では、標高75mの急峻な尾根で後期の火災を受けた竪穴住居址が1軒発見されている。また、33基の土壙墓群が発見されているが、出土遺物がほとんどなく時代を特定できないが弥生時代中期から後期初頭と思われる(7)。

弥生時代後期の後半になると、尾崎の黒宮大塚墳丘墓では竪穴式石室内から、碧玉製の勾玉と管玉が1点ずつ発見されており、墳丘の裾を中心として特殊器台と特殊壺も発見されている(8)。その後、西山遺跡では、特殊器台を2基使い棺に転用した遺構も発見されている(9)。

古墳時代になると町内の各地で古墳が築造されるようになる。前半期の古墳としては、小形の円墳、あるいは箱式石棺が尾根上に築かれている。しかし、竪穴式石室や箱式石棺を内部主体にした径20～30m級の円墳も確認されており、全体的には、点在あるいは一部群集している状況である。5世紀後半になって、一辺約30mの方墳、竜王塚古墳が築かれる。竪穴式石室内から鉄器が出土している。また、小田川と高梁川の合流点を望む地に天狗山古墳が築かれている。墳丘長約60mの帆立貝形の前方後円墳で、周堤を含めた全長は約85mに達することが近年の調査で確認されている(10)。6世紀半ばになると、全長約40mの前方後円墳、二万大塚古墳が築かれる。良く発達した前方部を西に向け、後円部に



第1図　遺跡の位置図

は横穴式石室を築いており、墳丘周辺部から円筒埴輪と須恵器が採集されている(11)。また、箭田大塚古墳は、直径約50mの張り出しを持った円墳である。横穴式石室の全長は19.1mで、石室内に3基の組み合わせ式石棺が現存している(12)。後期の古墳としては、横穴式石室を備えた古墳が尾根上や斜面等にある程度群をなして築かれている。

箭田大塚古墳に続く時代、白鳳時代になると、町内にも寺院が建立される。本遺跡南約300mの岡田廃寺、箭田の箭田廃寺、妹の八高廃寺の3寺である。これらの寺院は直線で約2.5km間隔の狭い範囲に建立されており、吉備式といわれる独特の蓮華文と鋸歯文で飾られた軒丸瓦が出土している。

その他に、奈良時代から平安時代の瓦を出土する遺跡が数か所知られているが、寺院跡、窯跡、あるいは公的な建物跡なのか不明である(13)。

江戸時代の文政期に出土した天平宝字7（763）年銘の「矢田部益足買地券」については、当初から疑問視されていたが、磚そのものが本物であり当時のもとして再確認された(14)。また、真備町を含む小田川下流域は、古代の火葬墳墓の集中する地域の一つである。町内では市場の火葬墓(15)、妹の内山池北火葬墓(16)、妹の坂本火葬墓(17)、箭田の阿知境奥火葬墓である。特に阿知境奥火葬墓で骨蔵器に伴って発見された短冊形の鉄板については、買地券、あるいは墓誌の可能性が指摘されている(18)。

中世には、それ以前の遺跡と重複する形で土器等の散布地が知られており、集落を形成していたものと思われる。

当時の石造遺物としては、辻田の正和3（1314）年銘の堂応寺宝筐印塔、時代はやや下ると思われる満願寺宝筐印塔が知られている。共に花崗岩製で岡山県でも優品の一つである。また、下二万矢形で緑泥片岩製の板碑が出土している。応永20（1413）年銘の板碑は失われているが、永仁5（1297）年銘が1基、延文5（1360）年銘の板碑が2基真備町公民館に保管されている。これら3基の板碑は、関東地方で製作されたものが本町まで運ばれ象立されたものといわれている(19)。なお、当時の墳墓の墓標として五輪塔がある。町内では、近世以降の墓地内に数基ずつ見られることが多く群集していることはない。（小野）

註

(1) 間壁葭子「高梁川下流域の無土器時代遺跡」『倉敷考古館研究集報第2号』1966

(2) 鎌木義昌・小林博昭「浅尾遺跡」『総社市史　考古資料編』1987

(3) 高畑知功「蓮池尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書62』1986

(4) 井上弘・古屋野寿郎「蓮池尻遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書79』1992

(5) 正岡睦夫・山磨康平・平井勝「西山遺跡」真備町教育委員会 1979

(6) 根木智宏・金田義敬ほか「池田散布地、石塔鼻散布地ほか、阿知境遺跡ほか」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書135』1998

(7) 工業団地造成に伴い岡山県古代文化財センターと真備町教育委員会により、1997年発掘調査された。

(8) 間壁忠彦・間壁葭子・藤田憲司「岡山県真備町黒宮大塚古墳」『倉敷考古館研究集報第13号』1977

(9) 註(5)

(10) 岡山大学考古学研究室により、1998年から墳丘の測量調査と発掘調査が行われ、規模や構造、埋葬施設が明らかになった。

(11) 藤田憲司「各地域における最後の前方後円墳　西日本Ⅱ　岡山県南部」『古代学研究103』1984
岡山大学考古学研究室により、2000年から墳丘の測量調査と発掘調査が行われている。

(12) 中野雅美「箭田大塚古墳」真備町教育委員会　1984

⑬ 箭田の松尾遺跡、妹の内山池遺跡、尾崎の石田遺跡の3遺跡である。瓦が採集されているため寺院跡といわれているが、礎石等が確認されていないため確かではない。

⑭ 間壁忠彦・間壁葭子「天平宝字七年矢田部益足之買地券文の検討」『倉敷考古館研究集報第15号』1980

⑮ 中田啓司「備中真備町市場の一火葬墳墓」『古代吉備第3集』1959

⑯ 近藤益二「吉備郡真備町妹内山池北出土骨臓器」『倉敷考古館研究集報第15号』1980

⑰ 間壁葭子・近藤益二「真備町坂本火葬墓」『倉敷考古館研究集報第16号』1981

⑱ 山磨康平「真備町箭田阿知境奥出土の骨臓器」『古代吉備第10集』1988

⑲ 播磨定男「岡山県の板碑」『徳山大学総合経済研究所紀要第5号』1983

1	和唐寺遺跡	5	蚊蜂遺跡	9	黒宮大塚弥生墳丘墓
2	岡田廃寺	6	高津池北古墳	10	西山遺跡
3	竜王塚古墳	7	箭田大塚古墳	11	松尾廃寺
4	田中塚古墳	8	箭田廃寺	12	二万大塚古墳

第2図　周辺の遺跡分布図（1/25,000）

第2章　調査にいたる経緯

第1節　調査および報告書作成の経過

平成11年度に吉備郡真備町岡田地区において、小規模ほ場整備事業が行われることとなった。工事に先立って町農林経済課から、遺跡の所在を確認する照会が、町教育委員会に提出された。

計画地は白鳳時代の岡田廃寺跡と接しており、また周辺には周知の古墳群が存在するため、県教育庁文化課の指導のもと試掘調査を実施した。

調査は町教育委員会の手によって行われ、岡田廃寺の周辺をはじめ21ヶ所のトレンチを設定し、調査面積320㎡として実施した。

調査の結果、岡田廃寺の周辺はすでに削平されており、遺構は確認されなかったが、計画地の北端近くの字和唐寺に設定したトレンチ17から、奈良時代の遺物とともに住居跡と思われる遺構を確認した。

この調査の結果を受けて、町教育委員会は町農林経済課と協議を行ったが、設計の計画上現状での保存は困難であることから、やむなく遺跡の全面調査による記録保存の措置をとることを決定した。

ほ場整備の事業の開始が平成13年度秋からであったこともあり、発掘調査は平成12年1月から調査面積1,000㎡として3月まで発掘調査を行った。

その後、平成12年4月から整理・報告書作成を行い、平成13年3月に報告書を刊行する運びとなった。

最後に、調査にあたっては県教育庁文化課、岡山県古代吉備文化財センターをはじめ、町文化財保護委員の方々には、ご指導、ご助言をいただいた。また、お忙しいなか何度も足を運んでご指導くださった総社市教育委員会武田恭彰主任、雪の降る日が何日もあるなか未熟な調査員を助けてくださった作業員の皆さんに記して深く感謝申しあげます。

（藤原）

第2節　調査の体制

発掘調査（平成10年度）
真備町教育委員会
　教 育 長　　片岡　　稔
　教育次長　　江尻　健二
教育委員会社会教育課
　課　　長　　山田　　守
　課長補佐　　中野　正治（調査担当）
　文化財保護主事　藤原　憲芳（調査担当）
　司　　書　　田辺　美和（調査補助）

発掘調査（平成11年度）
真備町教育委員会
　教 育 長　　山下　芳枝
　教育次長　　田渕　勝行
教育委員会社会教育課
　課　　長　　山田　　守
　課長補佐　　諏訪　智朗
　文化財保護主事　藤原　憲芳（調査担当）

報告書作成（平成12年度）
真備町教育委員会
　教 育 長　　山下　芳枝
　教育次長　　田渕　勝行
教育委員会社会教育課
　課　　長　　山田　　守
　課長補佐　　諏訪　智朗
　文化財保護主事　藤原　憲芳（報告書作成）

発掘調査参加者（平成10年度）
片岡　和正・滝本　増夫・三宅　文治
三宅　　博・片岡　誠一・滝本　英子
徳田　竹子・糸島　静子・片岡　洋美

発掘調査参加者（平成11年度）
片岡　和正・滝本　増夫・三宅　文治
三宅　秀男・滝本　　茂・三宅　　博
片岡　誠一・三宅　敏子・滝本　英子
徳田　竹子・糸島　静子・片岡　洋美
瀬崎美紀子・坂口　優子

整理作業者（平成12年度）
坂口　優子・武政めぐみ

調査期間中は地権者、関係機関をはじめ多くの方々から有形無形の援助を賜りました。
記して謝意を表します。

調査日誌抄
確認調査（平成10年度）
4月20日　資材搬入、調査開始
4月22日　T－1～8調査終了
4月27日　T－9～12調査終了
5月 1日　T－13～16調査終了
5月 7日　T－17・18調査終了
5月14日　T－19～21調査終了
5月22日　埋め戻し完了
5月26日　資材撤収、調査終了

発掘調査（平成11年度）
1月19日　資材搬入、調査開始
1月20日　重機による表土除去開始
1月25日　重機による表土除去終了
2月23日　竪穴住居状建物掘り下げ
2月26日　現地説明会開催
2月28日　包含層掘り下げ
3月 6日　資材撤収
3月 7日　調査終了

第3図トレンチ配置図（1/2,500）

第3章　発掘調査の概要

第1節　確認調査（平成10年度）

ほ場整備が計画された岡田山の谷地区は、白鳳寺院跡として知られる岡田廃寺跡の推定寺域と重なる部分がある。そのため寺域の確認を主眼に置きながら、区域内に21ヶ所のトレンチを設定し、平成10年4月～5月の約1ヶ月の間発掘調査を行った。調査では土層断面の観察、遺構検出および図面作成、写真撮影を行った。

計画地は谷になっており、調査区域は主に緩やかな斜面上に位置している。

T－1～4ではごく少量の遺物が確認されたが、遺構は確認されなかった。

T－5～12は岡田廃寺の寺域の確認を目的として設定していたが、すでに過去の水田開発等によって削平されており寺域の確認には至らなかった。遺物としてはT－8・11を中心として瓦片等（白鳳～奈良？）が一括して出土したが、土地の古老の話によれば、この付近では農作業の際よく瓦片が掘り出されるため、それを1ヶ所に集めて廃棄することがたびたびあったとのことである。今回確認されたものも、この一部であると考えられる。

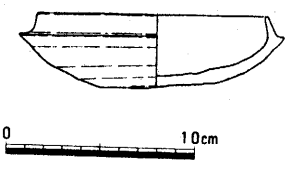
T－13・14からはごく少量の遺物が出土している。この地点はと砂質土および粘質土が堆積していたことから、幅3～4mの河道が存在したと見られる。この河道は山際を廻っていたと思われ、その痕跡がT－6の断面からも確認できた。

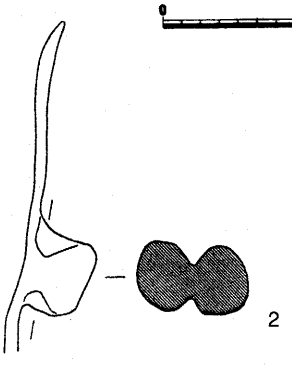
T－15では遺構・遺物ともに確認されなかった。

T－16では遺物としては少量の須恵器が出土したが、遺構は確認されなかった。

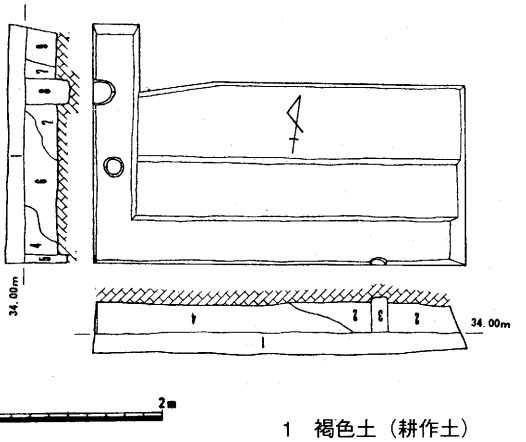
T－17では、中世の柱穴が確認された。このトレンチから須恵器片と甑（こしき）の一部と見られる遺物が出土した。このため、周辺に遺跡が存在する可能性が高いと判断し、全面調査を行うこととした。

T－18～21の地点は北から南へのびる低丘陵上にあたり、その地形から住居跡等が存在する可能性が考えられたが、遺構・遺物ともに確認には至らなかった。

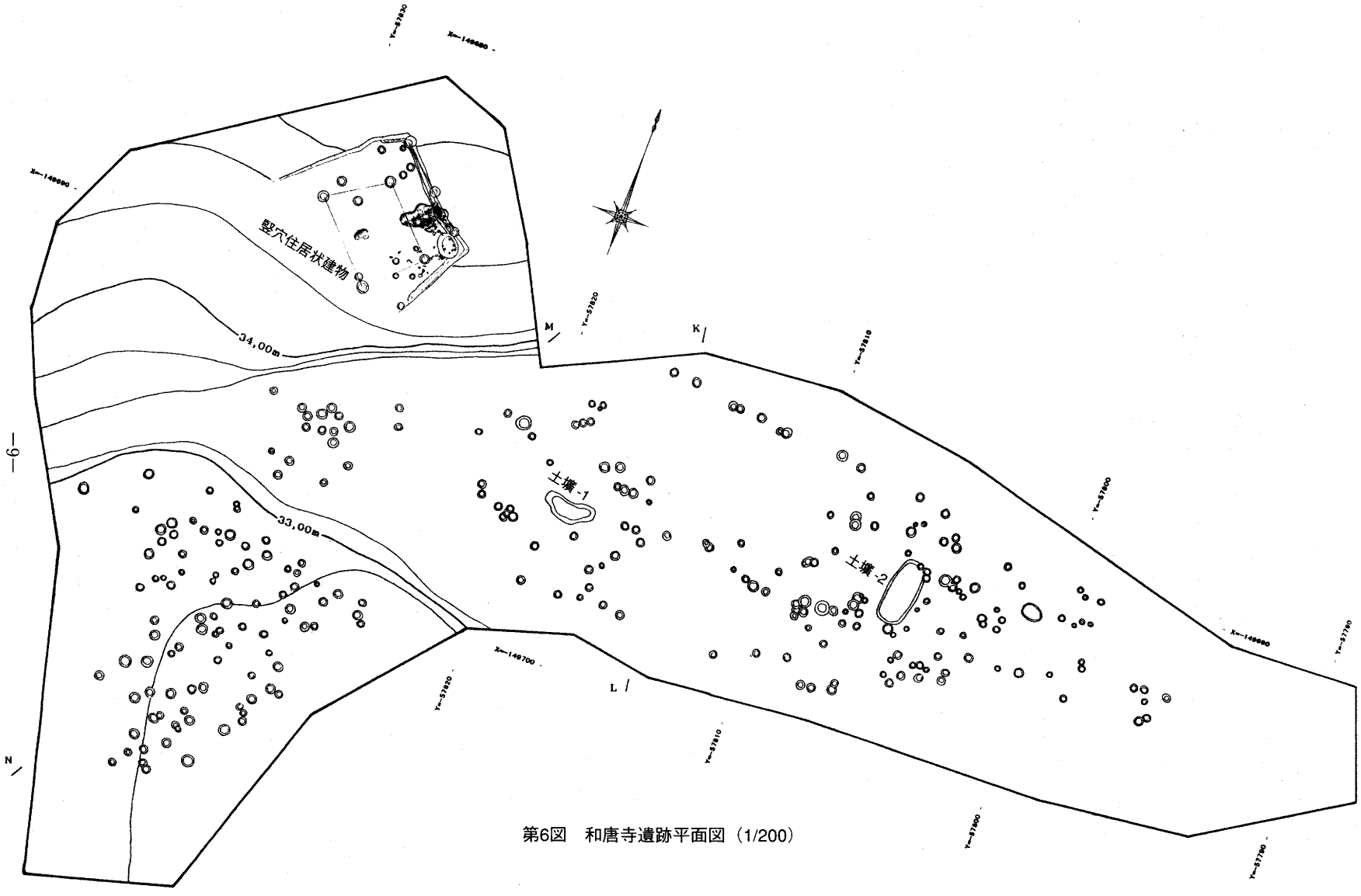




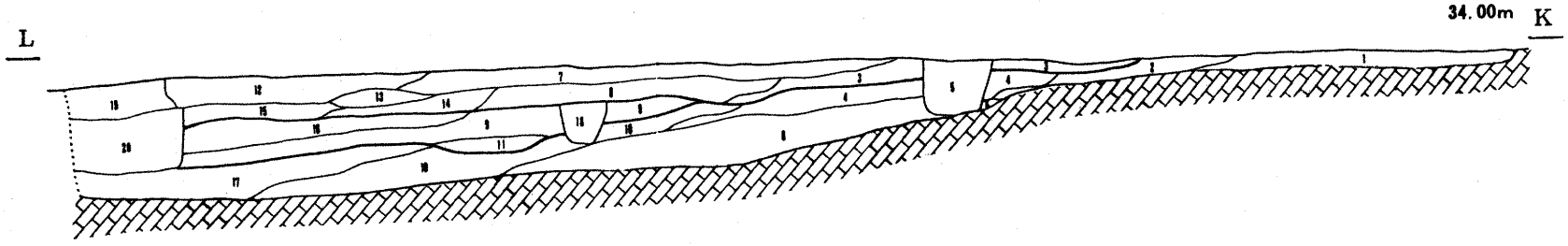
第4図　トレンチ17出土遺物（1/4）



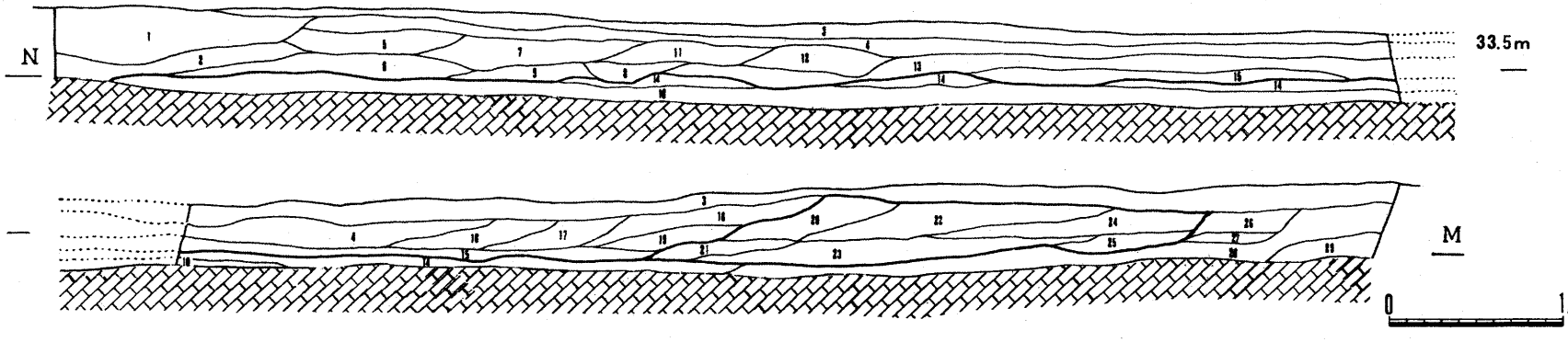
第5図　トレンチ17平断面図（1/80）



第6図　和唐寺遺跡平面図（1/200）



1 黄褐灰色土　5 黒褐灰色土　9 暗褐灰色土（中世造成層）　13 暗褐灰色土　17 暗褐灰色土
2 褐灰色土　6 暗褐灰色土　10 黒褐灰色土　14 褐灰色土　18 褐灰色土（中世柱穴）
3 暗灰色土　7 褐灰色土（中世造成層）　11 褐灰色土　15 暗褐灰色土
4 暗灰褐色土　8 褐灰色土（中世造成層）　12 褐灰色土　16 暗灰褐色土



1 灰黄色砂質土　5 褐灰色粘質粗砂　9 灰褐色土灰色粘質粗砂　13 暗褐灰色土　17 暗褐灰色土　21 暗灰色土（中世造成層）　25 暗灰色土（中世造成層）
2 褐灰色粘質粗砂　6 褐灰色粘質粗砂　10 暗褐灰色土　14 黄灰褐色土　18 黒褐灰色土　22 暗褐灰色土（中世造成層）　26 灰褐黄色土
3 褐灰色土　7 淡褐灰色土　11 暗褐灰色土　15 暗灰褐色土　19 暗灰色土　23 褐灰色土（中世造成層）　27 暗灰色土
4 暗褐灰色土　8 灰褐色土　12 暗褐色土　16 暗褐灰色土　20 灰褐黄色土（中世造成層）　24 暗褐灰色土（中世造成層）　28 暗灰褐色土
29 暗灰褐色土

第7図　和唐寺遺跡断面図（1/40）

第2節　和唐寺遺跡の遺構・遺物（平成11年度）

(1) 調査区の概要

本報告書に掲載している和唐寺遺跡は、小田川から北へ2.5kmほどのところに位置し、伊与部山を東端として緩やかに西に連なる丘陵の南側に位置する。その調査区は山の谷と呼ばれる幅200mほどの谷の北奥で丘陵の裾部である。

調査区は調査の以前には3区画に分かれた2段の畑地であった。

調査区内の東側では現耕作土の直下が地山になっており、無数の柱穴群が検出されたが、遺物はほとんど確認されなかった。柱穴の中から数点確認された亀山焼片から遺構の時代は鎌倉時代と見られる。東の端では耕作土の直下は地山であったが、中央に近くなると暗褐灰色の包含層が存在している。この包含層は西に行くにつれて深くなり、調査区の真中より西では追いかけられないほど地中深くに落ち込んでしまう。この包含層からは8世紀前半の土器片が多く出土した。

調査区内の西側では耕作土の下に中近世の層が堆積しており、東区で確認された鎌倉時代の層は耕作土下約1mの深さに平坦に広がっている。ここでも東区と同じように、無数の柱穴群が確認されたが、遺物の数は少なかった。

また、これだけ多くの柱穴がありながら建物と確信できるものは無かった。

調査区内の北側では、北東から南西へ向かって地山が緩やかに落ち込んで行くような地形になっており、1棟の竪穴住居状建物が検出された。建物内からは数点の須恵器、土師器をはじめ炭など生活の跡が確認された。詳細については、後段にゆずる。

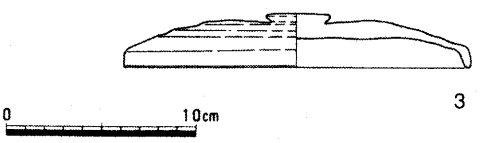
和唐寺遺跡の概要をまとめると以下のとおりである。調査区のほぼ中央から丘陵の先端が南西に向かって緩やかに傾斜しており、8世紀前後の遺構・遺物がその地山面上に存在する。しばらく時間を空け、中世になって、丘陵を削って3段に造成しなおして居住地または耕作地としたと考えられ、その造成面上には無数の柱穴群が存在する。

以下、各遺構について説明を加える。

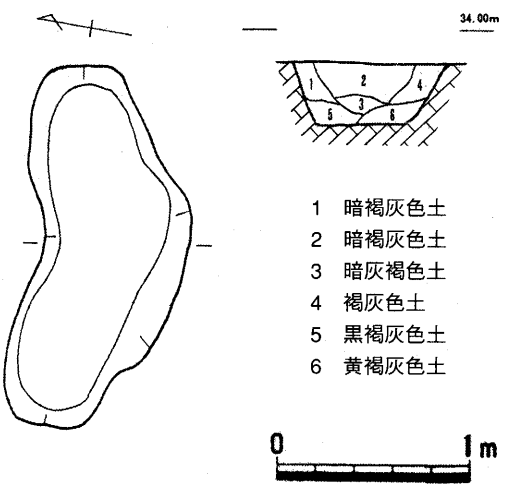
(2) 8世紀前後の遺構・遺物

1. 土壙－1

土壙-1は、調査区の中央西よりに位置する。ゆがんだ楕円形を呈しており、長径1.9m，短径80cmを測る。埋土からは土師器片・須恵器片が出土した。3は杯蓋である。時期は8世紀前半と考えられる。



第8図　土壙—1出土遺物（1/4）



第9図　土壙—1平断面図（1/40）

2. 竪穴住居状建物ー1

調査区の北の地点から検出された建物である。平面形は西側のやや広がった方形を呈し、規模は東側の辺は地山を削りこんでつくられており長さは約2.5mである。西側は側壁がなく地山の面にそって西へ緩やかに傾斜しており長さは約3〜3.5mである。北側と南側はいずれも東から西へいくにつれて壁が低くなっていき、無くなってしまう。

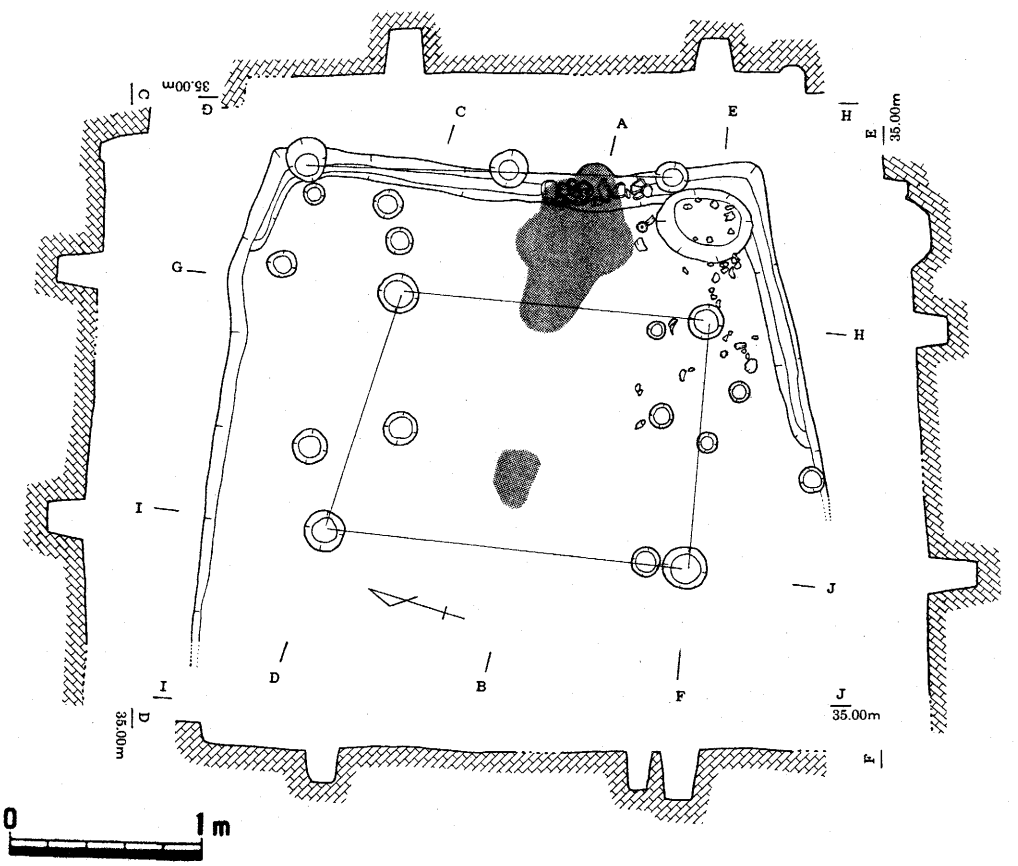
壁体溝は広いところで幅約20cm狭いところで約10cmほどであり、北側の一部と東、南側に巡っている。

柱穴は床面で径約20cm、深さは20〜30cmを測り、側壁と同様に西側がやや広がっている。東側の側壁にも柱穴が削りこむ形で3ヶ所設えられてある。

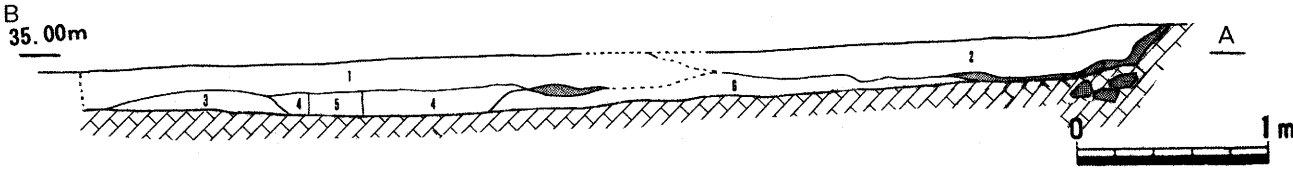
また、東側には炭が広がっており、奥には角礫が並べて置かれており、カマドが付設されていたと思われる。しかしながら、燃焼部と焚口の境は不明瞭で、燃焼部の床面には焼けた痕跡が見られなかった。

遺物は床面直上から須恵器を中心に、若干の土師器が出土している。4は須恵器の杯蓋である。5は杯蓋である。6は杯身である。

この建物の時期は出土した須恵器から7世紀後半のものと思われる。

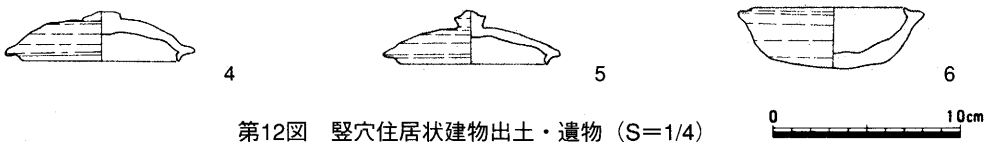


第10図　竪穴住居状建物平面図（S＝1/40）



1　褐灰色土　　2　暗褐灰色土　　3　褐灰色土　　4　褐灰色土（張床か？）
5　褐灰色土（柱穴）　　6　褐灰色土　　7　焼土

第11図　竪穴住居状建物断面図（1/40）



第12図　竪穴住居状建物出土・遺物（S＝1/4）

(3)　古代以降の遺構

1. 柱穴群

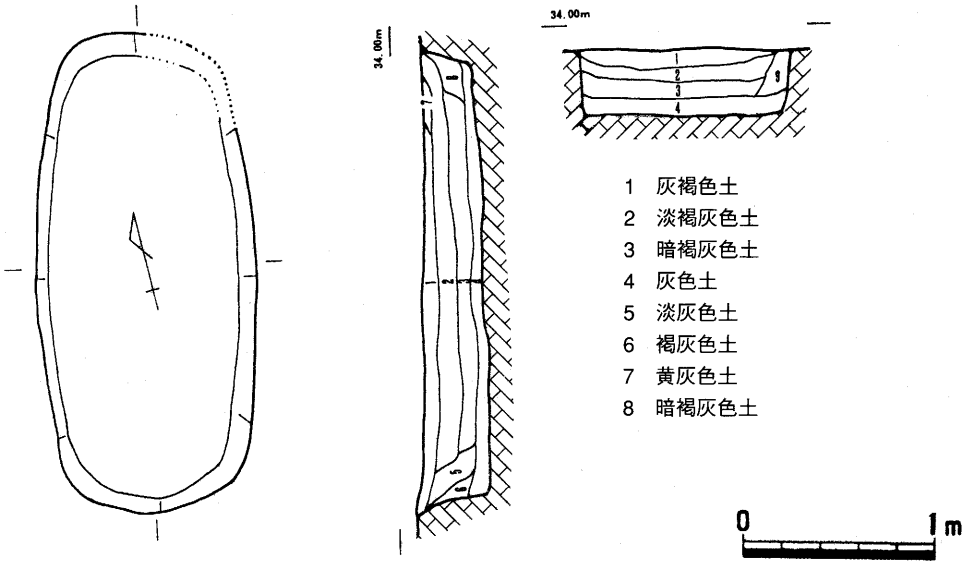
和唐寺遺跡の調査区では343ヶ所の柱穴が検出された。調査区は大きく3段に分かれているが、柱穴は竪穴住居状他建物が検出された一段高いところを除いて2段にわたって検出された。柱穴が検出された面は断面の観察から、南に向かって緩やかに下がる斜面であったもとの地形を造成し、平らな面をつくった後に建てられたものと思われる。

ただ、多くの柱穴が検出されたが、明確に建物と確認できるものは無かった。

この柱穴群の時代は、若干出土した亀山焼片などから中世のものと考えられる。

2. 土壙－2

土壙－2は調査区2段目の東よりに位置する。ほぼ均整のとれた長方形を呈しており、長径2.5m、短径1.2mである。遺物は皆無であったが、その形状や土層の観察から、土壙墓の可能性も考えられる。



第13図　土壙―2平断面図（1/40）

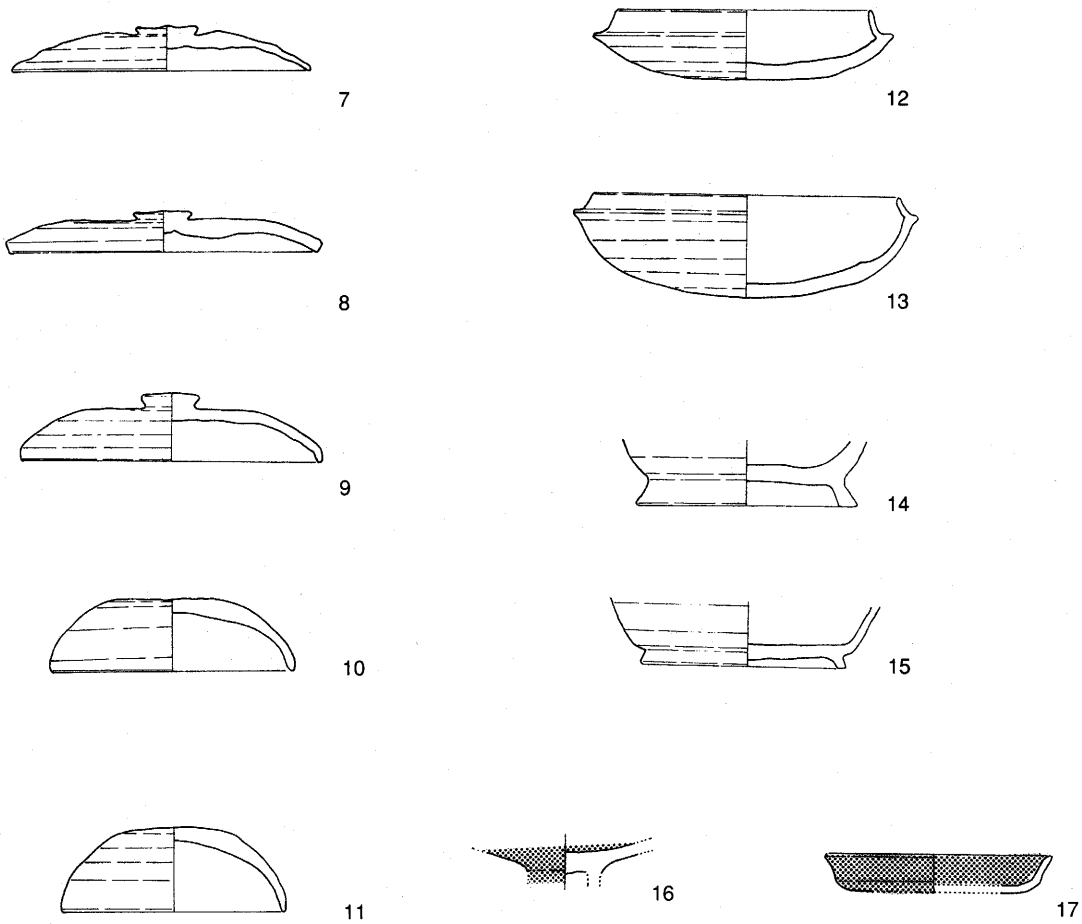
(4) 遺構に伴わない遺物

和唐寺遺跡の調査では、遺構に伴わない遺物が全部で19箱分出土している。

そのうちの多くが暗褐色の遺物包含層から出土した。包含層から出土したものは土師器片、須恵器片であり、時代は奈良時代のものが中心である。

7～15はすべて須恵器である。7～9は須恵器の杯蓋である。外面はヘラケズリ、内面はナデによって調整されている。10・11は須恵器の杯蓋で、内面、外面ともナデ調整がなされている。12・13は須恵器の杯身である。13は特に大型である。14・15は長頸壷の底部である。14は特に高く角張った高台を付している。

16・17は土師器である。16は高杯である。杯部、脚部とも失われており、杯の底部のみが残存している。17は杯身である。16・17とも内外面に丹塗りされている。（藤原）



第14図　遺物包含層出土遺物（1/4）

第4章　まとめ

ここでは、断片的ながら和唐寺遺跡と周辺に存在する遺跡について挙げ、まとめとしたい。

和唐寺遺跡の周辺で遺跡が存在するのは、古墳時代になってからである。

調査が行われた山の谷地区から北へ800mほど入った、木村山と馬入山、両山の谷会を北に望見できる尾根の鞍部、標高100mの高さの山上にこうもり塚古墳（仙人塚ともいう）がある。ここからは、南に山の谷部落が眺望することができる。「吉備郡史」には前方後円墳と記しているが、現在では墳形は判然としない。石室は全長11mを計り、玄室は片袖式になっている。遺物は皆無である。

ほ場整備が行われた地区の南に大池と呼ばれる池がある。その東岸の緩やかな斜面に直交する形で検出された長方形の土壙から、須恵器の甕、高杯などが出土した。これは、昭和58年（1983年）に調査された鵜越遺跡である。これは埋葬施設ではなく周辺の古墳から出土したものを二次的に一括埋納したものと思われる。

岡田廃寺は沖積平野を一望できる舌状にのびる丘陵の突端部上の平坦地している。これは町指定史跡に指定されており、6つの礎石が残されている。古老の話では付近の水田からは農作業中に瓦片が出土することがあったとのことである。これまで、発掘調査をされたことはなく、今回のほ場整備に伴ってすぐ脇まで開発の手が及ぶということで、岡田廃寺の周りには特に細かくトレンチを設定した。

しかし、岡田廃寺のある低丘陵とすぐ脇の畑の高低差は削平されたためか約1m弱あり、今回の調査では遺構は確認されていない。

今回、発掘調査を実施した和唐寺遺跡の調査面積は約1,000㎡で、谷部の最も奥の地点から、7世紀後半ごろの遺物をふくむ竪穴住居状建物1軒と中世の柱穴群が確認された。また、丹塗りの土師器をふくむ8世紀前半の土器が出土している。

この和唐寺遺跡と岡田廃寺の関係は不明だが、竪穴住居状建物から出土した土器が7世紀後半ごろのものと考えられることから、両遺跡が同時代に並存していたことが想像される。

その後、和唐寺遺跡では中世（13世紀ごろ）までは遺構、遺物とも存在しない。中世のものとしては、地山が大きく削られ造成された跡と、その後に掘られた多数の柱穴が確認され、遺物も若干出土した。

（藤原）

出土土器観察表

和唐寺遺跡

番号	遺構名	種別	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	備考
1	T−17	須恵器	杯身	16.0			内面ナデ　外面ヘラケズリ
2	T−17	土師器	甑				内面ユビオサエ　外面ハケメ
3	土壙−1	須恵器	杯蓋	18.6			内外面ナデ
4	竪穴住居−1	須恵器	杯蓋	10.0			内面ナデ　外面ヘラケズリ
5	竪穴住居−1	須恵器	杯蓋	9.3			内面ナデ　外面ヘラケズリ
6	竪穴住居−1	須恵器	杯身	9.8			内面ナデ　外面ヘラケズリ
7	包含層	須恵器	杯蓋	15.9			内面ナデ　外面ヘラケズリ
8	包含層	須恵器	杯蓋	16.7			内面ナデ　外面ヘラケズリ
9	包含層	須恵器	杯蓋	18.6			内面ナデ　外面ヘラケズリ
10	包含層	須恵器	杯蓋	13.1			内外面ナデ
11	包含層	須恵器	杯蓋	12.0			内外面ナデ
12	包含層	須恵器	杯身	15.8			内面ナデ　外面ヘラケズリ
13	包含層	須恵器	杯身	18.4			内面ナデ　外面ヘラケズリ
14	包含層	須恵器	長頸壺		11.8		外面ナデ　底部ヘラケズリ
15	包含層	須恵器	長頸壺		11.0		外面ナデ　底部ヘラケズリ
16	包含層	土師器	高杯				内外面丹塗り
17	包含層	土師器	杯身	12.0			内外面ナデ　内外面丹塗り

報告書抄録

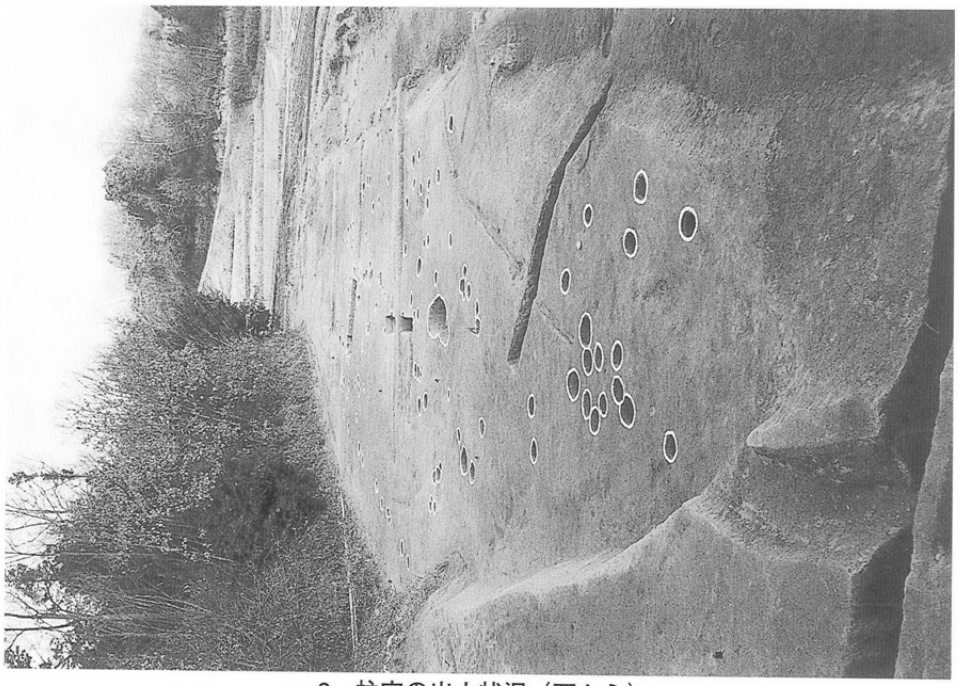
ふりがな	わとうじいせき
書名	和唐寺遺跡
シリーズ名	真備町埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ番号	2
編著者名	小野益二・藤原憲芳
編集発行機関	岡山県吉備郡真備町教育委員会
所在地	〒710-1301 岡山県吉備郡真備町大字箭田1685 TEL 0866-98-0042
発行年月日	西暦2001年 3月30日

ふりがな 収集遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
和唐寺遺跡	岡山県吉備郡 真備町大字岡田 字和唐寺	503		33 度 32 分 95 秒	133 度 42 分 01 秒	19980420 〜19980526 20000119 〜20000307	320㎡ 1,000㎡	町営ほ場整備に伴う確認調査及び本発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
和唐寺遺跡		古代 中世	竪穴住居状建物1軒 土壙　1基 土壙　1基	土師器 須恵器	谷上の地形の奥に形成された古代、中世の遺跡

図版1

1. 和唐寺遺跡の遠景（南から）



2. 柱穴の出土状況（西から）

図版2

3. 竪穴住居状建物（南西から）

4. カマド検出状況（南から）

図版3

5. トレンチ17出土遺物

6. 土壙ー1出土遺物

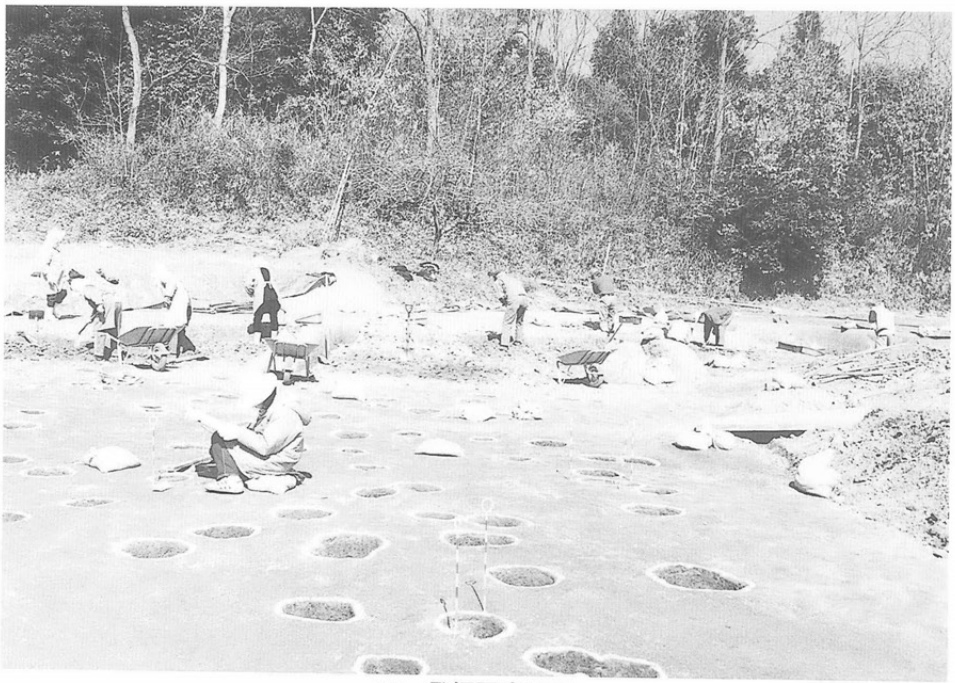
図版4

7. 堅穴住居状建物出土遺物

8. 包含層出土遺物

図版5

9. 包含層出土丹塗り土師器



10. 発掘調査風景

真備町埋蔵文化財発掘調査報告2

和唐寺遺跡

2001年3月　印刷
2001年3月　発行

編集発行　岡山県真備町教育委員会
岡山県吉備郡真備町大字箭田1685

印　　刷　友野印刷株式会社
岡山市高柳西町1－23